

News letter こいえあねす

vol. 8
2016.4発行

甲府市男女共同参画

ひとひと 女と男とのささえあい



第4期 エピローグ

contents

甲府市男女共同参画フォーラム2016	1
甲府市男女共同参画フォーラム2016	2
甲府市男女共同参画推進委員会啓発活動	3
日本女性会議倉敷2015・国立女性教育会館(NWEC)	4

編集・発行

甲府市男女共同参画推進委員会
TEL.055-237-5209/FAX.055-222-2062



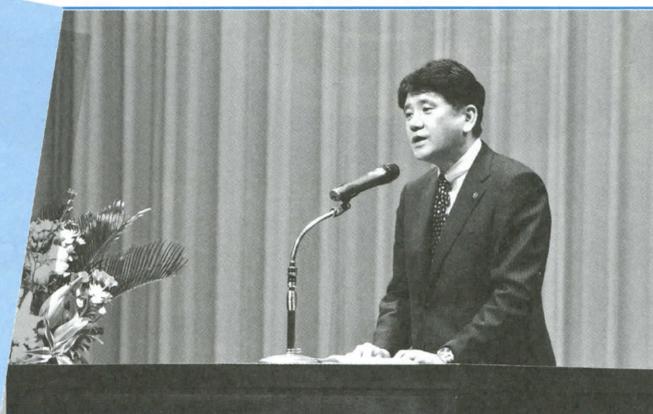
2016.2.20

甲府市男女共同参画

フォーラム2016

プログラム

1. 開会
2. 主催者あいさつ
3. 来賓紹介
4. 川柳最優秀賞の表彰
5. 男女共同参画都市宣言文の群読
6. アトラクション
ヒップホップダンス(ATS復興支援実行委員会)
7. 甲府市男女共同参画推進委員活動報告
8. パネルディスカッション「女と男とのささえあい」
9. 閉会

ひと ひと
女と男とのささえあい

パネルディスカッション



ヒップホップダンス・ATS復興支援実行委員会

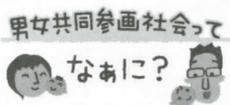
甲府市男女共同参画フォーラム2016によせて

齋藤 紀子

甲府市男女共同参画フォーラム2016が、2月20日(土)に開催されました。セレモニーでは、樋口市長、矢崎委員長の挨拶の後、川柳の最優秀賞の表彰があり、続いて男女共同参画都市宣言文の群読が会場の皆様全員で行われました。アトラクションでは少年少女の躍動感あふれるヒップホップダンスがステージ狭しとくり広げられました。続いて男女共同参画推進委員による、第4期の活動報告が5つのブロックごとに発表されました。それぞれに多くの収穫を得た内容の発表となりました。最後に「女(ひと)と男(ひと)とのささえあい」のテーマでパネルディスカッションが行われ、4人のパネリストがコーディネーターの問いかけにそれぞれの立場でお話しをされました。改めて気づかされたことも多々ありました。パネリストのお話の時折会場から笑いも出る和やかなうちに終了となりました。悪天候にもかかわらず大勢の皆様がご来場下さり感謝いたします。

推進委員会啓発活動

北 ブロック



活動テーマ

「男女共同参画ってなに？」

中道地区文化健康ふれあいまつりでパネル展を開催しました。



西 ブロック



活動テーマ

「身近にあるジェンダー」

- ・家庭におけるジェンダー
 - ・若い世代(大学生)のジェンダー
 - ・自治会活動の中でのジェンダー
- ※ジェンダーとは社会的文化的に形成された性別
私たちは身近なことに目を向けました。

中央 ブロック



活動テーマ

「男女共同参画による地域づくり」

アトランダムにての400人アンケート調査から見えてくる高齢化社会の問題点の検証を地域密着の訪問看護センターと行いました。今回の取り組みは、ほんの入り口です。問題の解決には至りませんが行政でできる事、できない事等の話し合いの場を作れる人材の育成が急務と検証されました。

東 ブロック



活動テーマ

「ジェンダーに敏感な視点で日常をみる」

主人公あずまちゃんの誕生～婚約までに受けるであろうジェンダーバイアスを盛り込んだ物語を作成しパネル、紙芝居、パワーポイントの3つに仕上げました。今後これらを使い啓発活動を行います。

南 ブロック

活動テーマ

「次世代の子どもたちに幸せを」

今年度4月にスタートした「子育て支援新体制」を知りたいという思いから始めました。聞き取り調査は、公立の保育園を訪問して、現場の実態を聴き、子ども達と子どもを取り巻く環境と現状について把握しました。これを基に新聞の切り抜きをしたり、関係資料を収集し、また、学習会に参加し勉強しました。



日本女性会議2015倉敷

日本女性会議2015倉敷に参加して

小田切 進

「日本女性会議2015倉敷」に参加し「思いやり男女(ひと)が集う白壁のまち」をテーマに学んで来ました。

伊藤香織市長の「全国から2,000名の10代~100才迄の参加者を歓迎します」との開会の挨拶の後、NHKアナウンサー武内陶子夫妻の記念講演があり、対談では子どもや自分に対しても、相対的評価をするのではなく、個性を評価し「自分のできることを誉める」ことが大切であり、女性が輝く社会が社会の成長を促し、苦しみを知る人間が輝かなくてはならない。まさに今回の会議を多数のボランティアが支え、たくさんの問題意識を持った男女(ひと)が集った大会を評した話だったと思います。

シンポジウムにてコーディネーターを務めた沖陽子岡山大学副学長は「女性研究者が育つ進化プラン」のサイクルを構築し、研究サポート体制は勿論WTT(ウーマン・テニユア・トラック)制度を採用し女性若手研究者を5年間の経験で評価しテニユア(永続的)教員登用する枠を確保し大学の活性化を図っているとのこと。近いうちに日本人の理系女子がノーベル賞を受賞するかもしれません。今回の会議で考えたことは、各人がそれぞれの立場にて男女共同参画を地道に実践することが重要であると思いました。

「食」文化の開放~今こそ始めよう 「食」の男女共同参画

浅尾 三枝子

作陽大学生の司会のもと、健康を計る機器メーカータニタの管理栄養士の軽妙且つ分かり易い手ばかりで、はかる・わかる・きづく・かわるが健康づくりの輪です。ヘルシーレシピは、1日3食、3つの皿(主食・主菜・副菜)で5大栄養素を摂る。美味しく塩分を減らす工夫等興味深いお話でした。山下静江先生と(元)タニタ社長の対談では、男性も一人で生きて行く為にも男女共同を考える必要があることが語られました。山下先生は、栄養学の面からも女性のダイエットは、次の人にも伝わり、年を取ってから色々な影響が出る。また、今家庭から食卓(団欒)が無くなっている。その為、食生活のみだれ、子どもの貧困等の問題が起きている。食の文化を享受できる展開方法は、家庭の「食」をきっちりと作る(創造性)・食べる(生きる)が根底。豊かな気持ちになり、はぐくみこれが家庭の原点になると語られました。多様化する食生活、家族の空腹に気づき調理する。役割分担ではなく役割判断が重要です。そのとき、そのとき、自分が何をすればよいかを判断し行動する。まさにこれが、男女が思いを尊重し合い、ともに行動していくことが、さまざまな課題を乗り越え、未来に向かう原動力になると思います。また、誰もが自然体で生活することが、「男女」すべての個人が「共同」性別に縛られず、共に社会で「参画」個性や能力をフルに発揮して活躍できる社会に繋がると思います。

NWECフォーラム 北京世界女性会議 一あの時、今、そしてこれから

中込 喜利江

有馬真喜子氏、林陽子氏、坂東眞理子氏、船橋邦子氏、谷口真由美氏のそうそうたる方々、20年の足跡を語られました。その中でクォーター制(割当)から、パリテ(男女同数)へと、女性の政治参画を必要とする日本に於いてはクォーター制にも程遠いのが現状と報告されました。北京会議に於いて「貧困」が議論されていました。貧困の女性と、シングルマザーとか高齢者(世帯での貧困)、今も大きな社会問題であります。知識ある者が伝え、発信力を持たねばならないと実感、時の流れの速さに現実が向かいきれていないと感じました。



文責: 雨宮 和恵 榊原 美由紀

アジアではじめて行われた国際女性会議から20年、それから今日まで、女性をとりまく環境はどう進んだのか、そして、これからはどうしていくのか、どうこれからの人に繋いでいくのかが議論されました。講演を聞き終え、世界中で女性が抱える問題が多いことを改めて知ると共に解決に至る

までには相当な時間がかかり、人々の意識改革の難しさを感じました。初めて聞く言葉も多く、勉強不足と実感しましたが、誰が聞いても分かるように工夫し発信しないと問題に対しての理解が得られないきが致しました。

パネリストの谷口さんの話は難しいことを分かりやすく普段着の言葉であり「半径3mの人から変えていこう!」はとても説得力があったと思います。